

Lecture 授業No.102 教科書P.161～

T.Q.「ウィーン体制の目的と手段とは？」

向出 研司：石川県立寺井高等学校
地歴公民科教諭

直前予習 T. A. キーワード確認

教科書 P.161・162

T.Q. 「ウィーン体制の目的と手段とは？」

1. 国際秩序
2. メッテルニヒ
3. 正統主義
4. ブルボン朝
5. 神聖同盟
6. 四国同盟

クリックで全て



今日の授業ラインナップ。

1. ウィーン体制の目的や理念
2. ウィーン体制を支えた国際組織
3. ウィーン議定書の内容

4 ウィーン体制

T.Q.「ウィーン体制の目的と手段とは？」

教科書P.161～

① ウィーン会議 (1814～15)

目的：ナポレオン war 後の新秩序 (**ウィーン体制**) を作る

中心：オーストリア外相 **メッテルニヒ** ※1

理念：1 **正統主義** (仏外相 **タレーラン**)

... 仏 revo. 以前の王朝や国境が正統でそれに戻る

2 大国の **勢力均衡** ※3 ※2

組織：1 **神聖同盟** (ロシア皇帝 **アレクサンドル1世** が提唱)

... 英とトルコとローマ教皇以外が加入

2 **四国同盟** (→1818、仏が加入)

... オーストリア・ロシア・プロイセン・英

十面：平和と協調

一面：自由とナショナリズムを抑圧する保守反動

国民主義・民族主義

1/2枚目のスライドはここまで！

一面:自由とナショナリズムを抑圧する保守反動

国民主義・民族主義

ここから

T.Q.「ウィーン体制の目的と手段とは？」

☆ **ウィーン議定書** ※4

教科書P.161～

オーストリア:ロンバルディアとヴェネツィア取得
→ **ドイツ連邦**の中心に

プロイセン:ザクセン北部とライン地方取得→工業の中心に

英:ケープ植民地・セイロン島(オランダから)取得
cf. **インドルート確保**のため

オランダ:南ネーデルラント(オーストリアから)取得
→ **オランダ立憲王国**に ※5

※T. A. まとめスライドへ

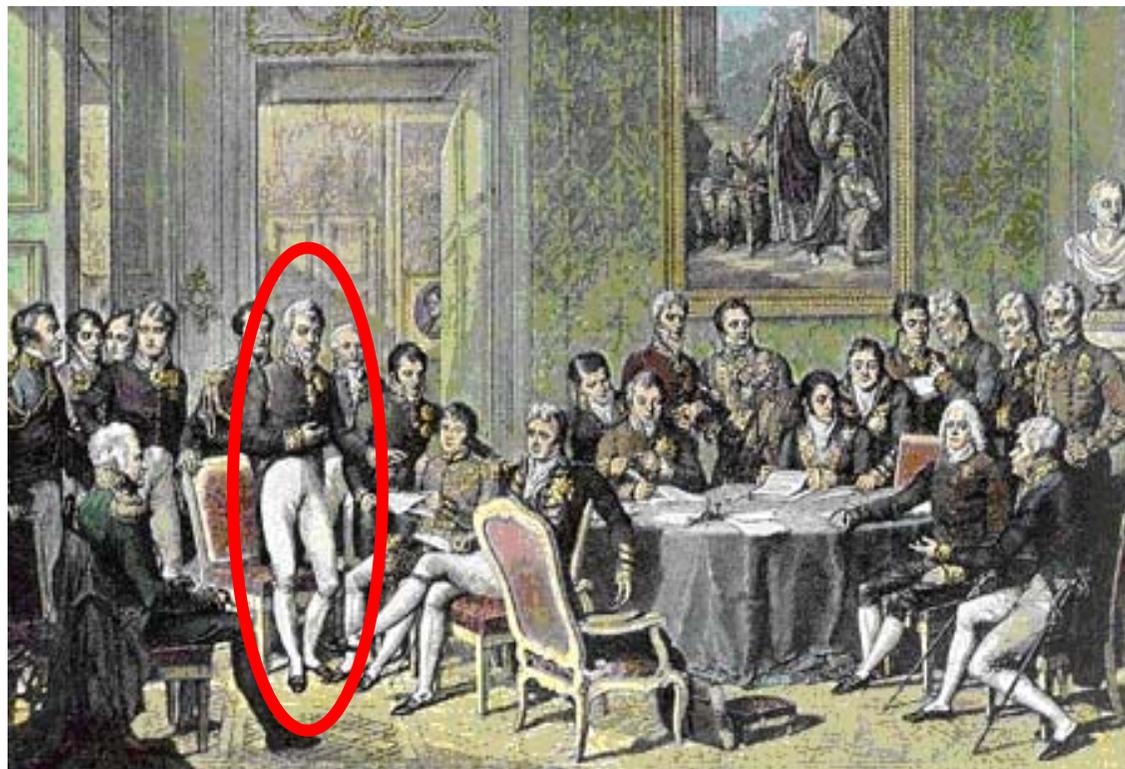
その他:1 スイスが永世中立国(～2002)に

2 **ポーランド王国復活** but ロシア皇帝が王を兼任

3 仏とスペイン・両シチリア王国に**ブルボン朝復活**

最後のスライドはここまで！

※1



ウィーン会議

クリック①: **メッテルニヒ**

クリック②: **メッテルニヒの肖像画** (すごい美男子！)

(1773~1859)

ウィーン会議を主
宰した若きオース
トリア外相(1821
~48年宰相)。

※2



タレーラン—政界の風見鶏—

かざみどり

(1754~1838)

ナポレオンを破ったロシア皇帝アレクサンドル1世を説得し、ブルボン朝を復活させたタレーランは、ウィーン会議が始まると大国同士の対立を巧みに利用して勢力

→
タ
レ
ー
ラ
ン



均衡をはかり、正統主義(復古主義)を採択させた。このため、敗戦国フランスの損失は最小限に食い止められた。フランス革命期の国

民議会議長→総裁政府外相→

ナポレオンの外相 (P.132写)

と渡り歩いた彼ならではの、政治的な手腕であった。

クリックで、
「愛国者」
タレーランの
巧みな
外交に
注目！

↓「会議は踊る」(風刺画) ナポレオンのエルバ島流刑を機に開催されたウィーン会議であったが、大国の利益が対立し、会議はいっこうに進まなかった。各国の代表を接待するため、毎日舞踏会が繰り広げられるようすは次のように風刺された。「会議は踊る、されど進まず」。(フォルスヴァルのエッチング)

だめだ、コリヤ！

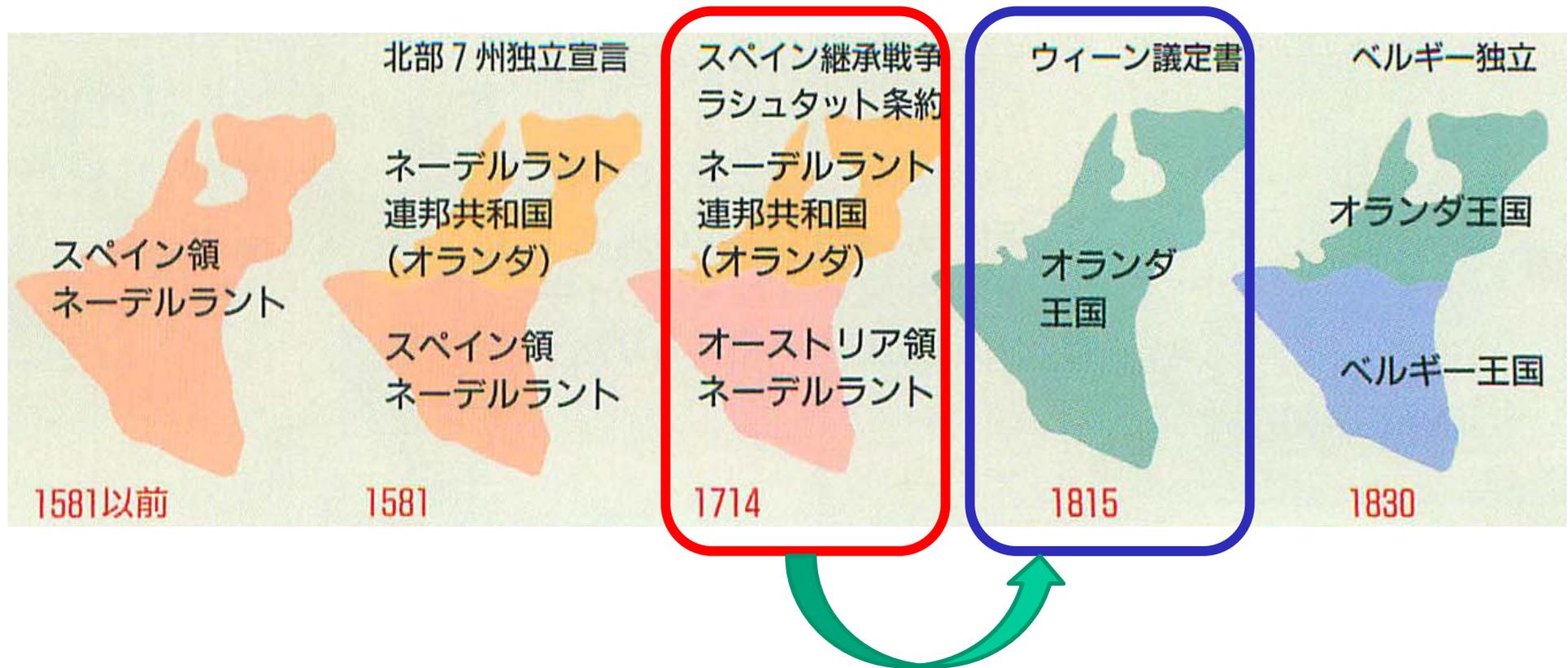
クリックで、
タレーランの気持ち



※5 ネーデルラント(今のオランダとベルギー)の歴史

クリック①:1714年＝ラシュタット条約で、スペイン領からオーストリア領に「戻った」
南ネーデルラント

クリック②:1815年＝ウィーン議定書で、**オランダ立憲王国**成立



Lecture 授業No.102

T.Q.「ウィーン体制の目的と手段とは？」

ウィーン体制はナポレオン戦争で混乱したヨーロッパの再建を目的とし、革命と戦争を防止することを目指した。その手段は仏外相タレーランが唱えた正統主義に代表されるような、正統主義とナショナリズム(国民主義・民族主義)を抑圧する保守反動や、大国主義といった大国の利害中心の勢力均衡策であった。その結果として、神聖同盟、四国同盟といった国際組織も生まれた。